

1. 建物概要

建物名称	(仮称)横浜ゴム株式会社 三島工場 タイヤ工場新築工事	BEE	1.1	BEEランク	B+	★★★
------	-----------------------------	-----	-----	--------	----	-----

2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点※/満点	取組み度	評価
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進 (Global Warming)	3.7	/5	 ふつつ 
“災害に強いしずおか”の形成 (Disaster)	2.9	/5	 がんばろう 
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進 (Universal Design)	3.5	/5	 ふつつ 
“緑化及び自然景観”の保全・回復 (Nature)	2.8	/5	 がんばろう 
※対応するCASBEEのスコア（平均）を5点満点で表示 します。（スコア1.0＝1点、スコア5.0＝5点）		評価 凡例 よい 4 点以上  ふつつ 3 点以上  がんばろう 3 点未満 	

3. 重点項目についての環境配慮概要

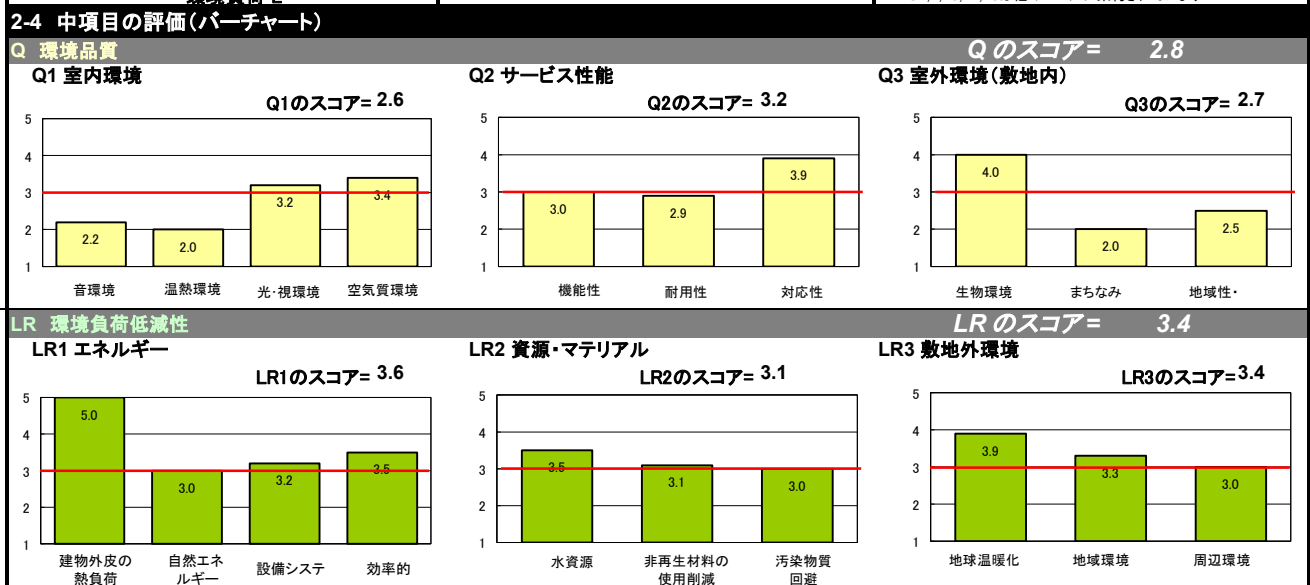
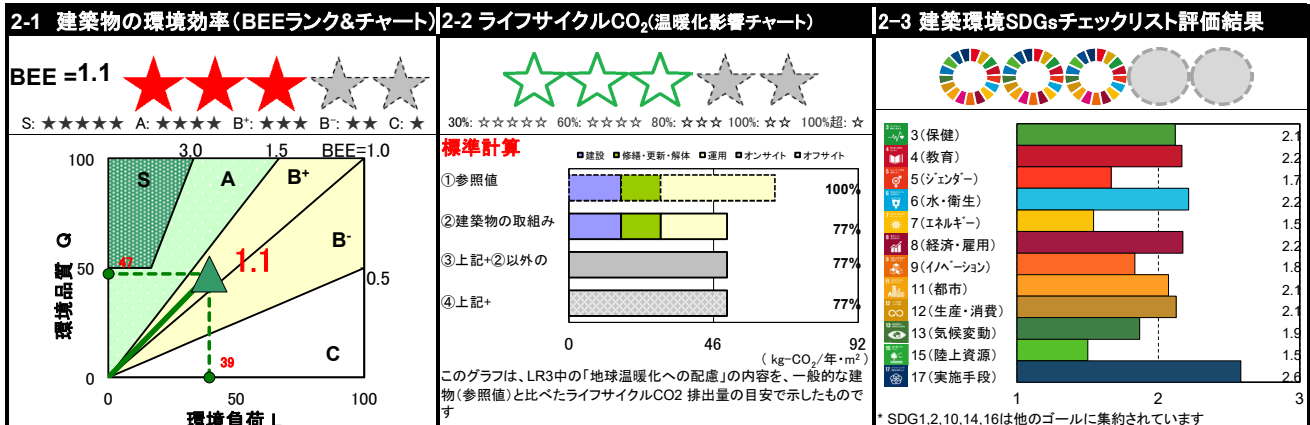
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。		内訳対応項目									
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進(Global Warming)		得点					3.7				
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ①事務エリアのLow-E複層ガラス採用による開口部の温熱環境向上。 ②ロールスクリーンを設置する。 ③空調換気の屋外露出ダクトは全てSUS製とする。	Q-1	2	2.1	2.1.2	①	外皮性能				
		Q-1	3	3.1	3.1.3	②	昼光利用設備				
				3.2	3.2.1	③	昼光制御				
		Q-2	2	2.2	2.2.1	④	躯体材料の耐用年数				
					2.2.2	④	外壁仕上げ材の補修必要間隔				
					2.2.3	④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔				
					2.2.4	④	空調換気ダクトの更新必要間隔				
					2.2.5	④	空調・給排水配管の更新必要間隔				
					2.2.6	④	主要設備機器の更新必要間隔				
		■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤敷地外周には高木を含む緑地を設けている。	Q-3	1			⑤	生物環境の保全と創出			
			3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上				
	■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率の運用) ⑦二重折板屋根や外壁に断熱材を敷設するなど、外皮性の向上を図った(BPIm=0.71) ⑧自然通風による自然エネルギーの利用。 ⑨LED照明の採用。	LR-1	1			⑦	建物外皮の熱負荷抑制				
			2			⑧	自然エネルギー利用				
			3			⑨	設備システムの高効率化				
			4	4.1		⑩	モニタリング				
				4.2		⑩	運用管理体制				
		■資源・マテリアル対策 (⑪水資源確保/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪節水機構のある便器、節水コマ付き水栓の採用。 ⑫建設中の発生材は分別集積を行いリサイクルを進める。 ⑬冷媒：ODP=0のR-410Aを採用する。	LR-2	1	1.1		⑪	節水			
					1.2	1.2.1	⑪	雨水利用システム導入の有無			
						1.2.2	⑪	雑排水等利用システム導入の有無			
			2	2.1			⑫	材料使用量の削減			
				2.2			⑫	既存建築躯体等の継続使用			
			2.3			⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用				
			2.4			⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				
			2.5			⑫	持続可能な森林から産出された木材				
			2.6			⑫	部材の再利用可能性向上への取組み				
			3	3.1		⑬	有害物質を含まない材料の使用				
			3.2	3.2.1	⑬	消火剤					
				3.2.2	⑬	断熱材					
				3.2.3	⑬	冷媒					
	■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭CO2排出率：64%。 ⑮卓越風向に対する建築物の見付面積比：33%。	LR-3	1			⑭	地球温暖化への配慮				
			2	2.2		⑮	温熱環境悪化の改善				
“災害に強いしずおか”の形成(Disaster)		得点					2.9				
	■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑯静岡県地域係数Z=1.2に準拠した構造計画とした。	Q-2	2	2.1	2.1.1	⑯	耐震性				
					2.1.2	⑯	免震・制振性能				
				2.4	2.4.1	⑰	空調・換気設備				
					2.4.2	⑰	給排水・衛生設備				
					2.4.3	⑰	電気設備				
					2.4.4	⑰	機械・配管支持方法				
					2.4.5	⑰	通信・情報設備				
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進(Universal Design)		得点					3.5				
	■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑲1階に休憩室や自販機を設置するなど休憩スペースを確保する。 ⑳2階平均階高は約4mで設備更新のしやすさに配慮する。	Q-2	1	1.1	1.1.3	⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画				
			3	3.1	3.1.1	⑲	階高のゆとり				
					3.1.2	⑲	空間の形状・自由度				
						⑲	地域性への配慮、快適性の向上				
	■室外環境(敷地内)対策 (⑲地域性・アメニティへの配慮) ⑲防犯カメラを設置する。見通しの良い敷地計画。社員による清掃活動の実施。	Q-3	3	3.1		⑲	地域性への配慮、快適性の向上				
“緑化及び自然景観”の保全・回復(Nature)		得点					2.8				
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/㉑まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤ホテルやカフェなど自生種を保全する緑地の整備。	Q-3	1			⑤	生物環境の保全と創出				
			2			㉑	まちなみ景観への配慮				
			3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上				
	■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善) ⑮隣棟間隔指数Rw=2.12、地表面対策面積率=20%	LR-2	2	2.5		⑫	持続可能な森林から産出された木材				
	LR-3	2	2.2		⑮	温熱環境悪化の改善					

CASBEE®-建築(新築) 2021年SDGs対応版

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追補版 ■ 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.5)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)横浜ゴム株式会社 三島工場	階数	地上2F
建設地	静岡県三島市南二日町8番1号	構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	10 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,328 時間/年(想定値)
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年2月 予定	評価の実施日	2025年1月23日
敷地面積	93,611 m ²	作成者	八木 正憲
建築面積	3,976 m ²	確認日	
延床面積	4,969 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項		
総合 ※これはCASBEE静岡(2021年版)による評価結果です。 生産拡大のため新工場を建築する。 外皮面積が大きな建物であるため、屋根は断熱材を挟み込んだ二重折板を採用し、外壁はグラスウール24kを入れ熱負荷を抑える。 照明、衛生などの設備機器は省エネに配慮されたものを積極的に採用する。		その他 工場周辺や近隣施設への清掃活動を展開している。 御殿川において2019年5月に「リバーフレンズ」に調印し、水質測定や生物観察、河川清掃などを行っている。2023年に工場排出後の下流でシマハヤカモが確認された。
Q1 室内環境 会議室の窓にはLow-E複層ガラスとロールスクリーンを採用し、窓からの熱損失を低減する。 会議室や応接室の照明は平均照度500lxを確保するように配置し、ゾーン毎に点灯できるようにしている。	Q2 サービス性能 1階に休憩室や自販機を設置するなど休憩スペースを確保する。 衛生設備の配管には耐久性の高い配管を使用する。 空調機は系統毎にファン可能なパッケージ型を採用する。 2階平均階高は約4mで設備更新のしやすさに配慮する。	Q3 室外環境(敷地内) 高木を含む既存の緑地を継承する。 生物多様性保全活動として2007年からの植樹活動により、工場前の樹木エリアで蜜が観測できるようになった。 敷地内の防犯性を考慮し、正門付近に受付が配置されている。
LR1 エネルギー 外皮性能BPI _{lm} =0.71を確保した。 自然エネルギー等の採用について、将来太陽光発電を行えるよう構造計算に荷重を見込んでいる。	LR2 資源・マテリアル 建設中の発生材は分別集積を行いリサイクルを進める。 既存建物の解体時は部材の再利用がしやすいように、躯体と仕上材を分別する。 使用する断熱材は有害物質の少ないものを採用する。	LR3 敷地外環境 CO ₂ 排出率が64%となっている。 ISO14001環境マネジメントシステムを導入し、温室効果ガスや産業廃棄物、水使用量を削減するため、自主管理値内の運用を行っている。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される